

一丁目ブロック長就任挨拶

一丁目ブロック長 浅井広己

ブロックの仕事としては、コミュニティの維持と親睦だと考えています。

姥ヶ山自治会の中では、少ない目の二百戸弱の町内ですが、戸建て数が四十戸ほどで、割と皆さんの顔が見えるし、面積から見ても小さいと言えますし、他のブロックに比べて道も単純で少ない、見通しの良い町内です。

昨今、台風や大雨被害が世界を苦しめている中で、殊に、姥ヶ山は被害があまり見られない地域かと思いますが、災害は何時も「不意打ち」します。心の中では準備をしながら、その為にも地域力を維持していかなくてはなりません、過度の密着は苦手なので、適当な距離を保ったコミュニティが理想とする処です。

其の為には、一丁目の皆さんに、「無理は言わないけれど、出来る事を・出来る範囲で・出来る時に。」の協力を是非お願いしたい。

其々の事情に応じた協力で十分ですから、これは、自治会員の皆様にもお願いしたい事です。

今回のコロナウィルス災禍に思い知らされた事は、世の中って、何て微妙なバランスの上に成り立って居るかと言う事でした。普通の生活が大災害や病気で壊れてしまう世界、もしかしたら、普通の生活って「奇跡」的なのではないかと思える。

大袈裟に言うなら、「一期一会」のこのコミュニティをよりよくする為に、何かあった時に役立てられるように、何が出来るかを、皆さんと一緒に考えながら作って行きたいと思います。

五丁目ブロック長就任挨拶

五丁目ブロック長 神田和幸

この度、新たに五丁目ブロック長を務めさせて頂くことになりました。

二年前の年末に、二十年ぶりに実家に戻ってきました。

それが、まさかのブロック長になるとは、自分でも驚いています。

今年は、いきなり新型コロナウィルスにより、いつもと違う地域活動に戸惑いますが、自治会活動により自分たちの地域を少しでも住みやすく、皆さんと協力しながら問題点を改善できるようにしていきたいと思っています。

わからない事も多いと思いますが、で、地域の皆様および先輩役員の皆様のご理解とご協力を頂き、微力ながらブロック長の責任を果たして参りたいと思っております。

どうか、よろしくお願いいたします。

六丁目ブロック長就任挨拶

「三」の持つ意味

六丁目ブロック長 青柳隼弘

この度、姥ヶ山自治会六丁目町内会長を命ぜられました、青柳でございます。当然のことながら慣れないことですので、皆様にご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

さて、最近「三」と言う数字(言葉)がよく使われています。「密接」「密集」「密室」などがその最たるものでしょうか。しかし、日本人は意外と昔から、この「三」という言葉を好んで使っていた様に思いますがいかがでしょうか？

古くは「三種の神器」「三本の矢」「だんご三兄弟」等々、よほど日本人は、この

「三」と言う言葉が好きなように思います。

私達は、家族はもちろんのこと親兄弟・親戚一同、縁者縁戚に至るまでいづも「無事であるか」「病気はしていないか」「達者であるか」と、気にやんでいると思います。もつとも「親の心子知らず」と言う者もいるかもしれませんが、逸れました、元に戻します。

自治の基本は、「治山」「治水」「治安」と言われています。それが国であつても、県であつても市町村であつても全く変わることはありません。しかしながらその根つ子、基本には住民が存在しています。

日本列島改造論を引っ提げて政界に打って出た田中角栄が、大臣に就任した際1957年、地元西山町の住民が「兄にやがいづくらエラなつてもオラの生活が良ーならんば日本は良うなつてねー」と漏らした言葉は、印象的な言葉として今もなお鮮明に記憶に残っています。

翻つて我町内会も町内会全体は勿論のこと、各班内の各家・お住まいの皆様がそれぞれ幸せを求めてご腐心なされているものと拝察いたしております。

もしも、お悩みのことやご心配のことが御座いましたら、内に込めずに言葉に出して話してください。先ずはご自分に対して、そして信頼のおける方に、それでも最後に頼りになる「向う三軒両隣り」かも知れません。

「三」という字は、とてつもなく大きく、深い意味を持っているのかも知れません。



部長就任挨拶

生活安全部長 高橋隆夫

このたびの役員改選で生活安全部長を務めさせて頂くことになりました。

総務部員を十数年担当させて頂きましたが、執行部の仲間入りということで大変緊張いたしております。

生活安全部の事業としまして、地域の安全意識の啓発・向上のための自主防災訓練の実施や健康・安全安心のための各種講演会の開催などを計画していきます。

自主防災訓練につきましては、これまでも活発に実施されて来ておりますが、近年参加者の数が少なくなっているのと伺っております。

より大勢の方々からご参加だけますよう、部員で訓練の内容や会場を工夫しながら計画していきたいと考えております。

災害の規模が大きくなればなるほど、「自助(自分の身は自分で守る)・共助(力を合わせて助け合い、自分たちの地域を守る)」が重要となります。

普段から近隣の方と顔見知りになり、地域での協力態勢を作っておきたいものです。

「いざという時どうするか」をイメージできるように、是非とも防災訓練には積極的に参加していただきたいと思ひます。

新型コロナウィルス感染症対策として、多くのイベントや催し物が自粛されています。様々な自治会活動が予定通りに開催できませんよう、一日も早いコロナの収束を心から願っております。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

《姥ヶ山会館 建設中です》

